

開発の舞台裏

第31回 中小企業優秀新技術・新製品賞

りそな中小企業振興財団・日刊工業新聞社選定 **5**

優秀賞

ロボテック

クレーン以上、ロボット以下。ロボテック(東京都中央区)は約1

トのつり荷を数百kgの力でハンドリングできる電動バルンサー「ムーンリフタ」を開発した。重量センサーとサーボモーターで力と位置を常に検知し、つり荷のバランスを取りながら人のワークをサポートする。

吉本喬美社長は開発のきっかけについて「顧客からの一言だった」と振り返る。2014年9月に電動トルクアクチュエーター「ユニサーボ」を発表。画期的な製品だったが、当時はなかなか売れなかった。そんな時、顧客に「ユニサーボの技術を応用して電動バルンサーをつくってみたら」

電動バルンサー「ムーンリフタ」

顧客の一言がヒントに

と投げかけられた。作業がネックとなっていたモーターなど、開発に軸と試作を重ね、15年12月た。また食品会社からは足を置いた会社。チェーンにワイヤロープでつり荷作業中にワイヤロープの巻上げ技術などの鉄線が食品へ混入する可能見はなかった。開発体制は吉本社長を責任者に7人。構造も含めて一かた。操作性・安全性も増し、受注台数は急激に伸びた。

現在は120kg〜480kgのつり荷重量を中心にした納入先の7割以上が大企業だ。「人手による作業が多いのは中小企業は有線で本体に取り、高齢化も進んでいる。力仕事のサポートとして使ってもらいたい」



だが問題はまだまだあった。つり荷をホールドする位置決めコントローラーは有線で本体に取りつけてあった。

「ムーンリフタ」(同)と新しいマーケットに手を置く吉本喬美社長(右)と嶋本篤(左)取締役

(鎌田正雄)

(火・木曜日に掲載)